「食の心理メカニズムを司る食嗜好性変容制御基盤の解明] (PM:喜田 聡) (2022年~ 2024年)キーワード:食の心理と愉しみ、食嗜好性の変化、食を通じての幸福感

1. プロジェクトのねらい

2050年までに、好き嫌いをなくし、健康な食を愉しんで食べ ることができる食習慣への改善技術を開発する。これによって、 健康な食を美味しく感じ、心身共に健康となり、こころに活力 がみなぎる社会を実現する

- ●目標9で達成を目指す社会像との関連
- ①健康第一の食により愉しみを享受し、幸福感が得られる(個人)
- ②食を通して他者とつながり、共感が得られる(集団)。
- ③健康な食により快感をも獲得し、ストレスが少ない(社会)。

現在 2050年

- ●幸福増進指標との関連
- ①前向き-ワクワク感、感動、喜び

食による快感、すなわち、ワクワク感、感動や喜びが得られ るメカニズムを明らかにする。そして、食習慣を改善する技術 開発確立を目指すことをで、健康第一の食によりワクワク感や 感動が得られるようにする。

②共感-一体感、連帯感(社会性-親近感)

一体感、連帯感、親近感により健康な食を愉しむことができ る技術確立を目指し、食により共感が産まれる技術の開発に貢 献する。

2. 研究開発プロジェクトのマイルストーン(達成目標)

3年目のマイルストーン

健康に優しい食の愉しみを通してこころ豊かな状態を叶える ための基盤技術を開発する。

3. プロジェクトの全体構成

●プロジェクトの概念図 ●研究開発項目及び実施体制

食行動の心理メカニズムを解明することで、健康に優しい食を愉しんで食べる 健康型食スタイルにより心を豊かにする基盤技術を開発する(PM; 喜田)

研究開発項目;食の心理メカニズムを司る食嗜好性変容制御基盤の解明

研究開発項目1; 食の心理メカ ニズムにおいて食嗜好性により 情動を産生する機構の解明(課 顕推進者 喜田)

齧歯類研究(行動⇔回路・細胞・分子)

ヒト様食行動の心理行動モデルの開発

例) 次は別の食べ物を食べたくなる脳内機

食経験を記憶するエングラムの同定

食嗜好性を変容する神経回路解明

∿

る神経回路解明

例) 好物のチーズであっても食経験後に多

く食べるようになる脳内機構

構(感性満腹感モデル)

共感をもたらす

神経回路の解明



相同性

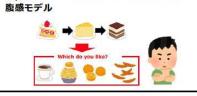
(行動)

研究開発項目2:ヒトの食行動 心理メカニズム解明に向けた食 嗜好性変容誘導課題の開発(課 題推進者 未定)

ヒト研究 (行動↔回路)

ヒトにおいて食嗜好性変化を誘導する 心理モデル課題の開発(何を食べるか を決定する心理課題の開発)

例) 次は別の食べ物を食べたくなる感性満



相同性 快情動を産生す

(将来構想)

- 脳画像解析を用いた食嗜好性変容を導く神 経回路の解明
- ・ヒトの脳画像解析によりマウス研究と合流
- ・マウスとヒトの研究により、過食症と拒食 症のメカニズムを理解し、改善方法を開発

嗜好性の心理メカニズムの解明:食嗜好性が後天的に変容し、食習慣が変化す るメカニズム、さらに、食により心が豊かになるメカニズムが解明される

(神経回路)

好き嫌いを苦痛なしで克服し、健康な食を愉しんで 食べることのできる食習慣改善技術の開発

最終ゴール;研究成果を利用して、食の愉しみにより幸福感を得 て、こころに活力がみなぎる社会を実現するを社会に提供する